

マダニがあなたを待っている

マダニに咬まれたことがありますか？

釣りや山菜採り、登山の好きな方は、おそらくマダニの姿を見かけたことがあるのではないのでしょうか。マダニは草の葉の先などで両前脚を持ち上げて、動物たちが来るのを待ち構えています。前脚の先には「ハラー器官」という感覚器があり、これで二酸化炭素や体温、振動を感知できるのです。動物にうまく付着できたら、やわらかい場所を探して移動します。私の子供は3歳のときに頭頂部を咬まれました(右の写真)。口器を皮膚に刺してから1日経つと、セメント状の物質でしっかり固定します。ほんとうに厄介ですね。



幼児の頭頂部を咬んでいるマダニ。発見が早かったので、簡単に抜けました。

マダニが嫌われるわけ

マダニが嫌われるのは、咬むだけではありません。多くの病原菌を運ぶためです。マダニがもたらす病気には次のようなものがあります。

(1)ライム病(2006～2010年に全国で41件、北海道で19件、国立感染症研究所調べ)

皮膚のあちこちに紅斑が現れ、発熱、頭痛、間接痛が見られる病気です。ダニに咬まれてから24時間を過ぎると感染の可能性が高まるそうです。

(2)重症熱性血小板減少症候群(SFTS、2013～2015年に全国で131件、北海道0件)

マダニ類の媒介するウィルス性疾患で、6日～2週間の潜伏期間を経て、発熱・おう吐・下痢が生じ、血小板や白血球の減少が見られます。今のところ発生は西日本中心ですが、エゾシカに付着したダニからも検出されており、道内でも危険はあります。

(3)ダニ媒介性脳炎(ロシア春夏脳炎)

マダニの媒介するウィルス性疾患で、潜伏期間は7～14日です。頭痛、発熱、おう吐などの症状があります。日本ではこれまで1993年に道南地方で1例の発生が記録されています。ロシアでは致死率が30%と高く、道南の例でも歩行障害などが見られました。

マダニに咬まれないためには？

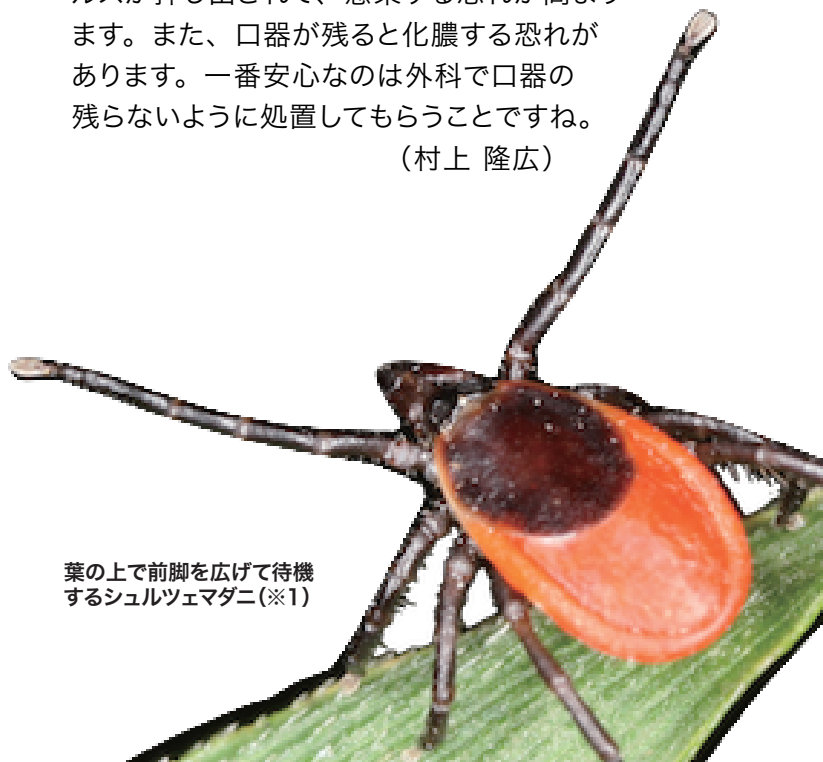
市販の虫よけスプレーの中には、蚊やアブだけでなくマダニに対する効果をうたっているものもあります。マダニは、虫よけスプレーによく使われているディートという成分を忌避する傾向があるためです。しかし、私の愛犬で効果を試しましたが、犬の体にはいつものように10匹以上のマダニがついていました。効いていないようです。実は犬用にはペルメトリンという成分を含有したより強力な忌避剤が市販されています。実際に仕入れて試してみました。先ほどと同じ場所を同じ時間歩いてみたところ、2匹だけついていました。しかし、その2匹もしびれたようになって落ちました。このペルメトリンという成分を含むヒト用の薬品も海外では販売されていますが、安全性への疑問(内分泌攪乱物質の可能性があるとのこと)から国内では認可がおりていません。今のところ虫よけ剤だけでマダニを防ぐのは難しそうです。

マダニは足下からよじ上ったり、襟や袖から侵入するので、長靴をはいたり首をタオルで巻いたりするとある程度侵入を防げます。そして、野外から帰ったらなるべく早く体をチェックするのがよいです。

マダニに咬まれたら？

マダニの口器の部分ピンセットでつまんで反時計まわりにまわすとよいといわれます。しかし体をつまんだり、圧迫してしまうとダニの持っているウィルスが押し出されて、感染する恐れが高まります。また、口器が残ると化膿する恐れがあります。一番安心なのは外科で口器の残らないように処置してもらうことですね。

(村上 隆広)



葉の上で前脚を広げて待機するシュルツェマダニ(※1)

発行 知床博物館協力会 2015.6.25

099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49
斜里町立知床博物館内

TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257
<http://shiretoko-ms.sakura.ne.jp/>